

平成28年度 基盤研究（S） 審査結果の所見

研究課題名	社会的闘争を制御する神経回路機構
研究代表者	岡本 仁（国立研究開発法人理化学研究所・脳科学総合研究センター・シニアチームリーダー） ※平成28年6月末現在
研究期間	平成28年度～平成32年度
審査結果の所見	<p>本研究は、ゼブラフィッシュの個体間の闘争における攻撃と降伏に関わる手綱核の亜核及びその投射（脚間核）経路の役割について、最先端の研究を進めている応募者が、その成果を基盤としてマウスにも対象を拡げて解析を進める優れた提案である。遺伝子操作、光遺伝学、神経細胞活動イメージングなどの先端的技法を駆使して、闘争行動の制御機構の解明を目指した本研究は、社会行動研究におけるブレークスルーになる可能性が高い。一方、特定経路の遮断や活性化の技術の選択性や効率性、マウスの闘争行動の解析法の妥当性については検討の余地があり、ヒトの闘争行動の理解への寄与も現時点では未知数である。</p> <p>しかしながら、全体として独自性、実現性の高い研究計画であり、基盤研究（S）として採択すべき課題であると判断した。</p>